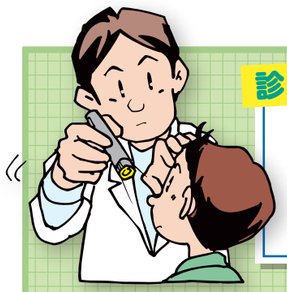


診療科シリーズ

眼　科

新庄病院眼科の鈴木理郎と申します。本日は当科の紹介と疾患について話させて頂きます。当科は月曜から金曜まで午前中外来診察、午後は緑内障や眼底出血などに対する検査外来を主に行っております。また、火曜午後と木曜午前（外来と並行して）には白内障を中心に手術を行っています。外来ではドライアイや結膜炎、白内障、緑内障、眼底出血などの診断や点眼治療を行っております。

ところで、みなさんはどんな時に眼科受診を考えますか？

目が痛い、かゆい、目ヤニが出る、そして見えづらくなった時などでしょうか。みなさんも緑内障や糖尿病網膜症といった疾患を耳にしたことがあるかと思いますが、これらの疾患は、気づかないうちに進行し、見えづらさを自覚して眼科受診した頃には既に手遅れとなっていることも少なくありません。
そして、この二つの疾患が我が国の失明原因の1位・2位を占めています。
今回は緑内障について話させて頂きたいと思います。

緑内障とは…

眼圧（目の硬さ）や血流、もともとの視神経の弱さなど様々な要因から視神経が傷んでくる疾患です。その自覚症状としては視野（見える範囲）が狭くなったり、見えない部分が出てきたりというものが一般的ですが、私達はふだん両眼で見て生活していますので、初期には見えづらさを感じず、症状が出てきた頃には既に末期ということも少なくありません。

緑内障の中には急激に眼圧が上昇して眼痛・充血・目のかすみ、頭痛や吐き気を自覚する急性緑内障発作というタイプのものもあり、こちらは急速に視神経のダメージが進行しますが、日本人に多いのはゆっくりと眼圧が上昇することで、または眼圧が正常でも視神経が傷むタイプです。そしてこちらのタイプは自覚症状がないために、気がついたら視野が悪くなっていたということになりがちです。

緑内障は我が国における失明原因の1位を占めています。そして40歳以上の日本人には、20人に1人の割合で緑内障の患者さんがいるとされ、この有病率は、年齢とともに増加します。しかし、先程述べましたように症状が出にくいために緑内障があることに気づかずに過ごしている人も多く、検診などで緑内障を指摘された方のうち、それまで緑内障と診断されていたのは、1割程度です。

残念ながら現代の医学では、一度失った視野を元に戻すことはできず、緑内障の治療は、あくまでも緑内障の進行をゆっくりにすることが中心です。そして治療を受けても最終的に失明に至る難治性の緑内障もあります。しかし、それでも早期発見・早期治療によって失明という危険性を少しでも減らすことができます。ですから、検診等で緑内障を疑われたら必ず眼科を受診して下さい。

県立新庄病院だより

わ　か　ば

平成24年 秋号
山形県立新庄病院
新庄市若葉町12番55号
TEL.0233-22-5525
yshinbyo@pref.yamagata.jp

第一駐車場入口が変更になりました

病院脇道路の道幅が広くなり、通行しやすくなりました。また、市道交差点渋滞緩和と事故防止のため、病院構内への入口が変更になりました。
以前の入り口からは入れませんので、交差点から曲がり、案内に従い構内へお進みください。

なお、構内は一方通行となっておりますのでご注意ください！

研修医紹介

県立新庄病院に着任して、早5ヶ月が経過しました。現在は日常生活に慣れ、病院での診療・診察業務に専念しております。しかし、依然として至らない面も多々あり、患者の皆さんや医療スタッフの方々にはご迷惑をお掛けしていることを申し訳なく思うと同時に、1日も早く、1人前の医師になり、新庄･最上地域の医療に貢献できるようになりたいと考えております。
今後とも皆様には、温かい目で見守ってくださりますようお願い申し上げます。

（研修医　佐藤　雅之）

当院は、医師臨床研修病院の指定を受け、将来の地域医療を担う医師の養成を行っています。
＜研修医＞　大学医学部卒業後、指導医の下、医療の現場で研修を行う医師。医師国家試験に合格し、医師免許を持ち、医師として医療行為を行います。

●医療機器を導入・更新しました●

PACSシステムのご紹介

放射線科受付「はい、レントゲン撮り終わりました～
外来に戻って頂いていいですよ」
患者 A「あれっ、写真たがっていがんなねべやー」
…レントゲン、たがっていかなくて良くなったんです。

医　師「あなたの心臓はこんな風に動いているんですよ」
患者 B「はーっ、心臓動いてっとこ初めて見せてもらったぜ、こげなってたっけのがー」
…検査室で撮った画像を病棟のテレビですぐにお見せできるようになったんです。

既にお気づきの患者様もいらっしゃることと思います。当院は今年度から、医療用画像管理・通信システム PACS(Picture Archiving and Communication System, パクスと発音) を導入しました。具体的には CT、MRI、エコー、胃カメラといった撮影装置から受診した画像データを、院内各署に設置したモニターで閲覧できるシステムです。モニターは院内約120か所に設置しました。PACS システムの導入により、患者様やスタッフのフィルム運搬に伴う手間がなくなりました。他院への紹介時にも、患者様に重いフィルムを運搬して頂く必要はなくなりました。これからは撮った画像データを焼き付けた 1 枚のCD を持って行って頂くだけです。“フィルムレス” の時代到来です。

医師は、患者さんの全ての画像データを、診療室にある 1 台のモニターで直ちに閲覧し診断することが出来るようになりました。患者さんの治療方針に関する検討会では、会議室の大型モニターが毎日大活躍しています。

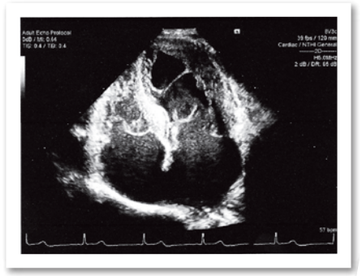
セキュリテイも万全です。モニターはパスワードを与えられた当院スタッフしか開くことが出来ません。画像をモニターから撮り出しCD に焼き付ける作業は、新たに設置した「データセンター」で一元化して行っています。

さらに町立最上病院には遠隔医療支援PACS が導入されました。町立病院で撮ったCT を当院に常勤している放射線科専門医が診断するという地域連携が可能になりました。今回導入された新システムには、地域住民の医療を確保するとともに、医療連携ネットワークを構築し、医療情報共有化の基盤を整備するための切り札として大きな期待が寄せられています。

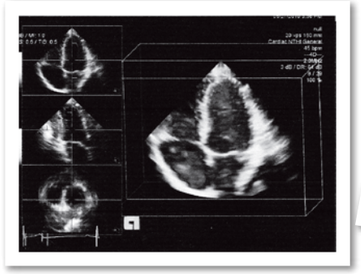
心エコー機を更新しました

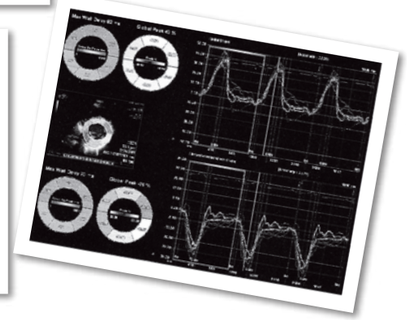
今年６月、最新型の心エコー機が導入されました。

従来のエコー機よりも格段に鮮明な画像が得られ、心筋や弁の性状などを今までよりも詳細に観察することができます。わずかな心臓の壁運動異常を可視化して診断する、2Dスペックルトラッキングモードなど最新の技術が搭載されています。



また、進化した3D心エコーモードが搭載されており、心臓全体の動きや弁逆流などをより正確に診断することができます。





MRI装置を更新しました

MRI装置を更新しました。

新しい技術を利用することにより、検査時間の短縮や高分解能画像が得られるようになりました。また、頭部の動きや呼吸による腹部の動きなどのノイズを軽減でき、頭部や腹部などあらゆる部位において高コントラストの画像が得られるようになりました。さらに、両側の乳腺検査や脳神経の繊維方向が見えるようになり、脳の微小出血がわかる画像も可能となりました。

検査時の音が静かになり、すべての検査でヘッドホンから音楽を聴きながら検査できますので、患者さんには安心してMRI検査をしていただけます。更衣室も広くなり、車いすの患者さんも付き添いの方と一緒に着替えできるようになりました。

新しくなったMRI装置で脳ドックなどいかがでしょうか。